

感染症情報

感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）の季節到来！

どんな病気？

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。

原因となるウイルスには「ノロウイルス」「サポウイルス」「アデノウイルス」「ロタウイルス」などがあります。手指や食品などを介して口に入り、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。健康な人の多くは軽症で回復しますが、子どもや高齢者では重症化することもあるため、体調の変化に注意しましょう。

どうやってうつるの？

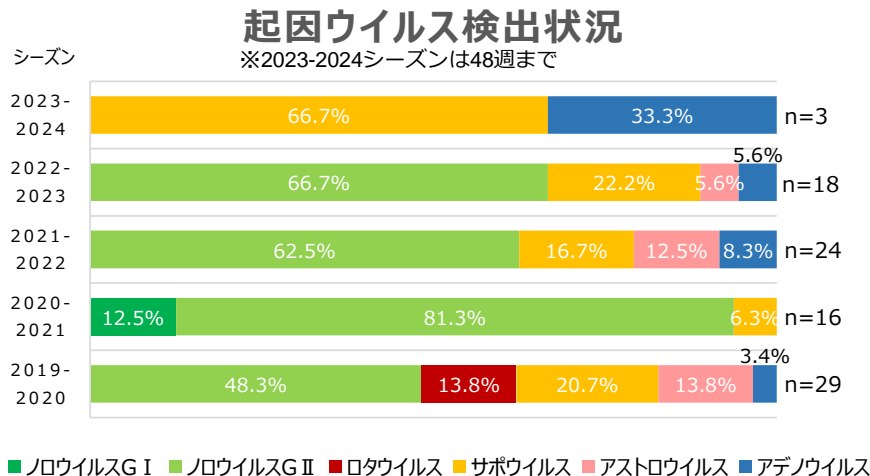
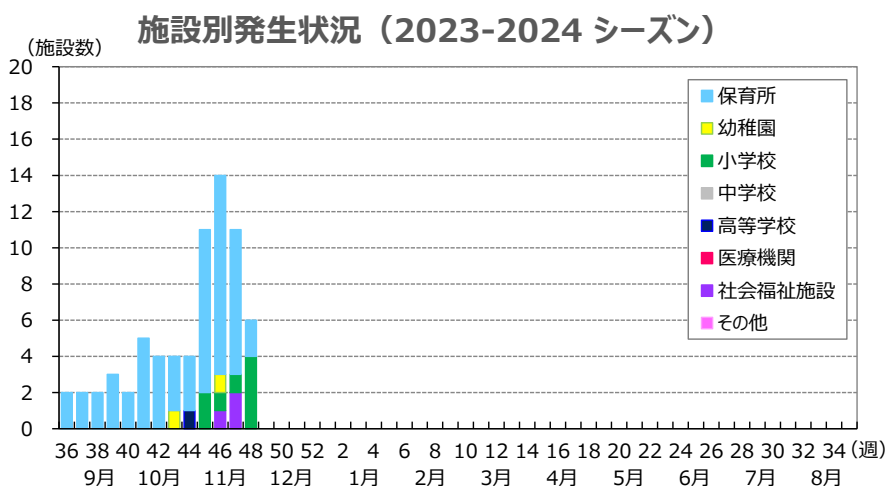
人から人へと感染する場合や汚染した食品を食べておこる場合があります。以下のような感染経路があります。

- ✓ 感染者の吐物やふん便の不適切な処理や、処理後の不十分な手洗いにより、手や環境中に残ったウイルスが体内に取り込まれた場合
- ✓ 感染した人が十分に手を洗わず調理し食品が病原体で汚染され、それを食べた場合
- ✓ 病原体で汚染されている食品を食べた場合

どのくらい発生しているの？

感染性胃腸炎は、例年、11月から増加しはじめ、12月頃をピークとして3月まで多発します。

2020年10月よりロタウイルスワクチンの定期接種が始まり、2020年シーズン以降のロタウイルスの検出は激減しました。



予防する方法や治療法は？

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスはアルコール消毒の効果が乏しいため、流水と石けんによる手洗いをしっかり行うことが大切です。特に排便後や調理、食事の前には、その都度、手を洗いましょう。

おう吐物やふん便を処理する時は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）で処理し、処理後は、石けんと流水で十分に手を洗うことが大切です。

ノロウイルスの汚染のおそれのある二枚貝などの食品を調理する場合は、中心部まで十分に加熱しましょう（中心温度85℃～90℃で90秒以上の加熱）。

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎の場合には特別な治療法はありません。つらい症状を軽減するための治療（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、注意が必要です。